

『ソフト・パワーの面から考えた、ロックフェスティバルと音楽』

国際学部国際社会学科3年

鏡山賢太

1、テーマ設定にあたっての動機

私自身、音楽に携わっているということもあるが、私は非常に音楽が好きである。音楽に助けられたといっても過言ではないくらい、私は音楽によって人生が変わった人間である。また、震災以降の世の中が変化している中で傷つき、疲れ果てた人々が、勇気づけられた、癒しを与えてもらった、問題提起を与えられた等、音楽によって影響を大きく受けているということを知ってから、私は音楽がソフト・パワーとして持っている性質、またソフト・パワーとしての有用可能性について考えるようになった。目に見えない音楽をより生身で体験できるイベントであるロックフェスティバルという、音楽とあらゆるもの（アーティスト、場所（ハコ）、観客、メッセージ性、+α的要素）が融合したポップカルチャーが、ソフト・パワーとして人々にどう影響を与えているのかについて深く理解しようと思ったためである。

2、ロックフェスティバルとは

ロックフェスティバルとは、場所（ハコ）ごとの特色を生かした音楽ライブのことである。明確な定義はされていないのだが、私自身が考えるロックフェスティバルとは、屋外・屋内問わず、音楽、アーティスト、場所（ハコ）、観客、比較的長い日程（例えば三日通しの日程など）、メッセージ性、+α的要素があればロックフェスティバルと言えるのではないだろうか。有名な国内ロックフェスティバルとしては、茨城県ひたちなか市で行われる「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」（毎年8月上旬開催）¹、新潟県湯沢町苗場スキー場で行われる「フジロック・フェスティバル」（毎年7月下旬開催）²などが有名である。

3、ロックフェスティバルがもたらす経済効果

ロックフェスティバルが持つ経済効果について考察していきたい。ロックフェスティバルでの需要となるものは、交通費、飲食代、宿泊費、買い物代（アーティストグッズなど）である³。また、それに加えて、ロックフェスティバル開催地に伴っての知名度の上昇、その土地ならではの名所を巡る観光費があげられる。ロックフェスティバルはこのように、町おこしの一環としても行われている。栃木県にも、「ベリテンライブ⁴」と呼ばれる、栃木

県真岡市井頭公園で行われるロックフェスティバルがあり、これもまた、栃木県の町おこしのイベントとして注目を浴びている。

4、去年の東日本大震災以降の、変化しつつある日本のロックフェスティバルへの(様々な視点での) 考え方

去年の東日本大震災で、「不謹慎」という言葉が蔓延し、震災の騒乱もまだ冷めやらぬ中、ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2012 を、福島原発に近いひたちなか市で開催することに関して、アーティスト、音楽業関係者や世間の人々が、当時 twitter およびインターネット上で反対・批判的な議論を生んだ。震災以降、常につきまとっていた電力不足問題や「不謹慎」ムード漂う世間のなかで、娯楽であるロックフェスティバルを原発の目と鼻の先で開催する ROCK IN JAPAN FESTIVAL には、「世間、アーティスト、観客に配慮が足りない」などといった批判が続出した。⁵そして、それに対して、ROCK IN JAPAN FESTIVAL 出演アーティストや、非出演アーティストが批判や、ROCK IN JAPAN FESTIVAL 中に対抗するアクションとして、核廃絶や原発反対を表明するパフォーマンスなどを行った⁶。また、同年フジロック・フェスティバルがスポンサーの意向によって、脱原発を掲げたアーティストの出演を取りやめにするというできごとがあった。⁷

5、去年の東日本大震災を機に立ち上がったアーティストたち

去年の震災以降で、震災で傷ついた人々や、暗くなった世の中を元気づけようと、かつて 90 年代で人気を博したメロディック・ハードコアバンドである「Hi-Standard」や、同じく 90 年代に人気を博したロックバンドである「SIAM SHADE」、80 年代に人気を博した布袋寅泰氏と吉川晃司氏の二人組ユニット「COMPLEX」などといった、さまざまなアーティストの再結成が続出した⁸。これに対して、「生きる力を与えられた」、「頑張ろうと思った」、「震災に便乗しているだけではないか」などたくさんの声が飛び交い、各メディアを賑わせた。

また、震災以降で、反原発ソング「サマータイム・ブルース」を歌っていた忌野清志郎の CD アルバムが 2011 年 4 月の時点でそれまでの売り上げの 5 倍になったということ⁹や、反原発ソング「ずっとウソだった」を歌った栃木県出身アーティストである斉藤和義氏¹⁰などのはたらきからか、反原発をテーマにしたアーティストが増えてきている。

6、脱原発をテーマにしたロックフェスティバル「NO NUKES 2012」

去年の東日本大震災の発生および福島第一原子力発電所の事故から1年を経たことを受け、音楽の力で脱原発を訴えたいという思いから立ち上げられた音楽フェスティバルである「NO NUKES 2012」が千葉・幕張メッセ国際展示場を会場に、2012年7月7日・8日の二日間通しで開催された。開催のよびかけにあたって、1978年に結成し、日本にテクノ/ニューウェーブムーブメントを巻き起こしたテクノポップ音楽グループ「Yellow Magic Orchestra」のメンバーであり、またソロ活動としても多方面で活躍する坂本龍一が発案者となった。このNO NUKES 2012の収益金は脱原発運動「さようなら原発1000万人アクション」に全額寄付される。また、このNO NUKES 2012は動画共有サービスであるUstreamでライブ中継され、会場に来られない客も見ることができた。私自身、このイベントに2日目だけ参加したのだが、今回が第一回目ということ、また当日は雨であったせいか来場客数は少なく、今回だけのイベントとしておわってしまうのは本当にもったいないという印象があった。この「脱原発」というテーマを掲げたロックフェスティバルは、音楽が持つソフト・パワーとしての1面を強く全面に押し出したものであり、今後日本のロックフェスティバルに「テーマ性」を強く持ったものが後続してほしいと私は考える。

7、ソフトパワーとしての音楽

以上で述べてきたように、音楽は人々の心に、音楽を通してその思想や、考えを強く訴えかけるソフトパワーとしての性質を持っている。私は、音楽は聞く人によっては、ただの娯楽であるが、聞く人によっては、その人の人生をも変えてしまうことのできるものだと思っている。実際にかつて、アメリカで左翼的思想を掲げ、反ブッシュ体制を全面に押し出した、**Rage Against The Machine** というバンドはその過激さ故に、アメリカ国内でのラジオで彼らの曲を流すことを、政府からとめられるほどであった。¹¹私が実際に高校生のころにアメリカのメイン州に行ったときにも、**Rage Against The Machine** の存在はよく知られていたし、影響を受けていたものもいた。音楽とは、その社会で生きている人間が創っていくものであり、その社会を反映しているものだと私は考えている。故に、社会が変わっていけば、人間の暮らしが変化していくと、同様に音楽自身もまた絶えず変化しているといえるのではないだろうか。そして、その音楽を聴いた人間はその音楽に、その音楽を創ったアーティストに影響され、その社会に対する感情や思想が受け継がれていく。このように、音楽はソフトパワーとしての性質をもつものであり、これからも人々に影響を与えていこう。

¹¹ ROCK IN JAPAN FESTIVAL 公式 HP 「ABOUT」(12年7月6日閲覧)

<http://rijfes.jp/2012/about>

² FUJI ROCK FESTIVAL 公式 HP 「開催概要」 (12年7月6日閲覧)

<http://www.fujirockfestival.com/guide/outline.html>

³ 音楽文化・産業論 2008 I 公式 HP 「野外コンサートと経済効果」 (12年7月6日閲覧)

<http://nnp.co.jp/article/detail/90631373/>

⁴ ベリテンライブ公式 HP 「TOP PAGE」 (12年7月7日閲覧)

<http://www.berry.co.jp/berryten/>

⁵ エレファントカシマシにまつわる話だけのブログ 『今夏 (2011) 「ひたちなか」 で開催することに反対する』 (12年7月7日閲覧)

<http://fushinchu-elephant.blog.so-net.ne.jp/2011-05-20>

⁶ Youtube 公式 HP 「ソラニン - 新世紀のラブソング / ASIAN KUNG-FU GENERATION」 4分25秒辺りから (12年7月7日閲覧)

<http://www.youtube.com/watch?v=4qmOIKi7AK4>

⁷ 制服向上委員会プロデュースオーディションブログ 公式ブログ「フジロック関係者並びに支持される多くの方へ」 (12年7月7日閲覧)

<http://blog.oricon.co.jp/ski-official/archive/4028/0>

⁸ 日刊 SPA!公式 HP 「ハイスタ再始動「国を動かしたい。動きゃしないけど」 (12年7月7日閲覧)

<http://nikkan-spa.jp/160128>

日刊スポーツ紙面 (2011年4月29日付) および nikkansports.com 公式 HP 「芸能 - ニュース」『S I A M SHADEが9年ぶり再結成』 (12年7月7日閲覧)

<http://www.nikkansports.com/entertainment/news/p-et-tp0-20110429-768077.html>

ナタリー公式 HP 「ニュース」『COMPLEX 再び! 7月に東京ドームライブ「日本一心」 決行』 (12年7月7日閲覧)

<http://natalie.mu/music/news/48659>

⁹ スポニチ 公式 HP 「芸能」『強烈なメッセージ 清志郎さん反原発ソング アルバムは5倍の売り上げ』 (12年7月7日閲覧)

<http://www.sponichi.co.jp/entertainment/news/2011/05/03/kiji/K20110503000747550.html>

¹⁰ ガジェット通信 『【消せば消すほど増殖中】ミュージシャン斉藤和義さん本人?が「ずっとウソだった」と自身の歌を替え歌に』 (12年7月7日閲覧)

<http://getnews.jp/archives/109637>

¹¹ レイジ・アゲインスト・ザ・マシーン Rage Against The Machine - (12年7月7日閲覧)

<http://www3.ocn.ne.jp/~zip2000/rage-against-the-machine.htm>